

横浜トリエンナーレ 2008 の実施結果について

開港 150 周年のプレイベントである横浜トリエンナーレ 2008 は、平成 20 年 11 月 30 日をもって会期を終了しました。

新港地区を中心に開催しましたが、前回展を上回る約 1,500 人の市民ボランティアに支えられるとともに、約 30 万人の来場者を迎えて、開港 150 周年へ向けて地元の盛り上がりにつなげることができました。

また、海外のメディアにも 120 件以上取り上げられるなど、クリエイティブシティを目指す横浜市の取組を世界に向けて発信しました。

1 開催概要

(1) 開催期間

2008 年 9 月 13 日～11 月 30 日／79 日間（無休）

(2) 主催

横浜市、国際交流基金、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

(3) 会場

【メイン会場】

新港ピア、日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)
横浜赤レンガ倉庫 1 号館

【その他】

三溪園、ランドマークプラザ、大さん橋国際
客船ターミナルほか

(4) 来場者数

306,633 人（有料 4 会場延べ人数）

参考：前回展 189,568 人

(5) 総合ディレクター

水沢 勉

(6) 参加作家

25 カ国・地域から 72 作家

（前回展：30 カ国・地域から 86 作家）

(7) 市民協働

ボランティア 1,510 人（登録数）

（前回展：1,222 人）

(8) 特徴

- ・本展作品がまちなかへ展開（ランドマークプラザや中華街、市内の公園など）
- ・トリエンナーレと同時期に、大規模なアートイベントを多数開催。（主なものは「黄金町バザール」「The Seeds Trip プロジェクト（日比野克彦監修）」「バンカートライフⅡ」など。）

(9) メディア

1,137 件（うち海外 123 件）

（前回展：1,089 件（うち海外 40 件））



新港ピア外観



三溪園(中谷芙二子「雨月物語-懸崖の滝」)



中華街(大巻伸嗣「Memorial Rebirth」)

2 今回展に対するマスコミ評価の一例

- ・主要3会場はもちろん、同区内の三溪園なども使った展示をたずね歩く人は絶えない。パフォーマンスが相次ぐ週末は、目当てのアーティストの会場前に列ができることも。観客は、予測できないその場限りのダンスに接し、現代アートの一多様性を感じ取ったりしている。公募で集まった小中学生ガイド「キッズ・キュレーター」が感想を語って観客の創造力を刺激し、楽しみ方を広げている。 —『読売新聞』
- ・今年1つだけ現代美術の展覧会を見に行くとすれば、それはこの巨大なスケールを誇る横浜トリエンナーレであるに違いない。 —『インターナショナル・ヘラルド・トリビューン』
- ・横浜という港町の風景と歴史の特殊性を、有機的に質の高い芸術体験に取り込んでいる。(中略)現代アート本来の目的に立ち戻る姿勢が復古的ではなく、むしろ新鮮で有効に思われたことが、今回のトリエンナーレの優れた成果だった。 —『美術手帖』

3 今後の取組

平成 21 年 3 月 報告書作成

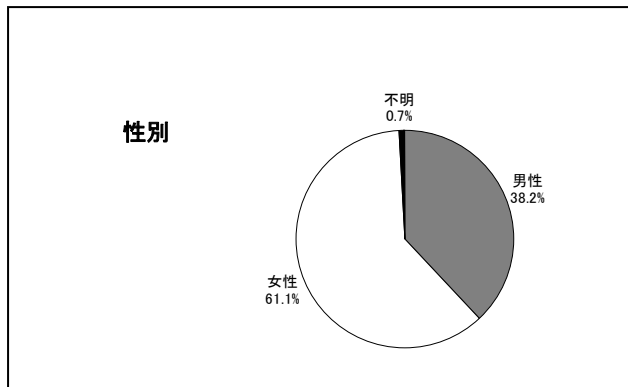
3 月 29 日 今回展の総括と次回に向けた検討のための公開シンポジウム

◎来場者アンケート結果（速報値）

実施日：平日：平成 20 年 11 月 14 日（金）・20 日（木） 休日：11 月 15 日（土）

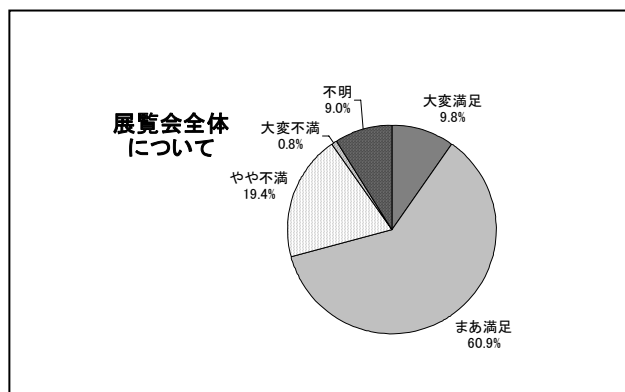
実施方法：平日 3：休日 7 の割合で任意抽出した来場者を対象とする記述方式

有効回答：1,077 人



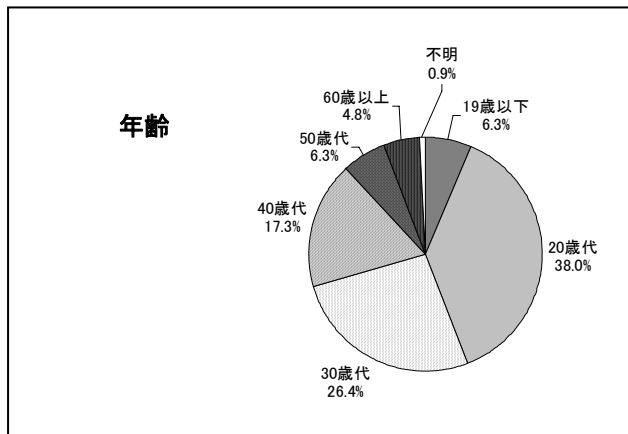
【男女比】

女性が 6 割（前回展は女性が 7 割）



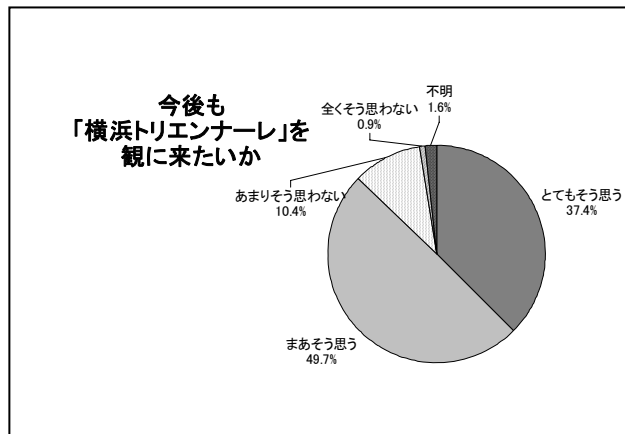
【展覧会全体について】

「大変満足」+「まあ満足」で 71%
（前回展は 73%）



【年齢】

30 代以下が 7 割（前回展は 30 代以下が 8 割）



【今後もトリエンナーレを観に来たいか】

「とてもそう思う」+「まあそう思う」で 87%
（前回展「今後も実施すべき」(91%)）

黄金町バザールの実施結果について（報告）

かつて違法な特殊飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区において、文化芸術の力でまちを再生させる取組をすすめています。「黄金町バザール」は、その先導的事業として実施しました。

来場者数は10万人を超え、子ども連れの方をはじめ多くの皆様にご来場いただき、これまで人通りのなかったまちに賑わいができるとともに、テレビ、新聞、雑誌等、多くのメディアに取り扱われ、アートの力によるまちの再生として、その第一歩を踏み出すことができました。

この取組を継続させ、安全・安心で賑わいのある街づくりに向け、地域と一体となって推進していきます。

1 開催概要等

(1) 期間

2008年9月11日（木）～11月30日（日）

(2) 主催等

主催：黄金町バザール実行委員会

（実行委員長 鈴木伸治横浜市立大学准教授）

共催：横浜市開港150周年・創造都市事業本部
横浜市芸術文化振興財団

(3) 会場

京急電鉄「日ノ出町駅」と「黄金町駅」の間の高架下新設スタジオ、旧違法特殊飲食店の一部、周辺店舗、大岡川等

(4) 基本的な考え方

- ①「衣食住」を含む新しい商業活動の試みや、街を見直すアイデア、イベントなどを含めた多彩な分野を取り入れたバザールのようなイベント
- ②地域、行政、企業、警察、学生、ボランティアが一緒になって活動する。
- ③都市再生のモデルケースとして、全国に発信する。

(5) 参加アーティスト

35組

(6) 来場者数

10万人超（目標7万人）

(7) 事業費

約88,000千円

（市補助金45,000千円、助成金・企業協賛40,000千円、その他収入3,000千円）



日ノ出スタジオ(期間限定ショップ)



黄金スタジオ(内部)



東小の子どもたちとの協同壁画制作

2 20年度の成果

- ・ 来場者は、目標の7万人を上回る10万人を超えるとともに、新聞、雑誌、テレビ等80件以上のメディアに取り上げられるなど、大きな反響がありました。
- ・ また、「黄金町バザール」を実施する中で、地元の理解もすすみ、会場として利用して欲しいという地権者も出てきました。

20年度当初は、横浜市として6軒の旧特殊飲食店を借上げ転用していましたが、活動の結果、現在は19軒に増加しました。

- ・ 地元では、こうした機運を継続させ主体的に活動できる組織が必要と、地元と「黄金町バザール実行委員会」が中心となって、NPOの設立をすすめています。

＊「特定非営利活動法人 黄金町エリアマネジメントセンター（代表 小林光政氏、現初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会副会長）」平成20年11月30日設立総会開催、現在法人認証申請中、21年4月1日発足予定）



地元制作ののぼり旗



NPO設立総会(11月30日)

3 今後の取組

- ・ 引き続き、現在約150軒の空室となっている旧特殊飲食店の借り上げをすすめていくとともに、高架下スタジオや旧特殊飲食店を文化芸術スタジオとして活用し、アーティストやショップに貸し出すなど、多くの市民やアーティストが集まってくるようなしくみをつくります。
- ・ 現在、法人認証申請中のNPO「黄金町エリアマネジメントセンター」が主体となって、この地域に集積したアーティストやクリエイターと地域が協働で新しい商業活動やイベント「黄金町バザール2009」を開催し、地域の賑わいを創出していきます。
- ・ 合わせて、まちづくりのワークショップを開催し、まちのマスタープランを作成します。